

気象学におけるインターネット (8)

Young Meteorologist Network (ymnet) の紹介*

佐藤 薫**

これまでに紹介のあった電子メールシステムにはメールリストまたはメールグループと呼ばれる機能があります。これは基本的には1対多の情報伝達手段で、差出人がメールリストのアドレスにメールを送ると、登録されているすべてのメンバーに再送付されるという仕組みです。これを用いれば「多対多」の議論をすることができます。ymnetは、1990年6月に気象学会若手の情報交換の場として発足したメールリストです。しかし、若手に限らず、ネットワークにアクセス可能なら誰でもymnetメンバーになることができます。また必ずしも気象学会員である必要はありません。

ymnetのメンバーになるには、まずymnetのメールアドレス

`ymnet_req@kugi.kyoto-u.ac.jp`

に

e-mail アドレス #参加者の氏名(参加者の所属)

のような形式でメールを送り、メンバー登録の意思表示をしてください(ここでメールアドレスの_(アンダースコア)に注意して下さい)。メンバーに登録されると、ymnetに投稿されたメールが送られてきてymnetの議論に参加することができるようになります。アドレスの登録を行なう「世話係」は、1993年3

月以降、石岡圭一氏(東大数理)が担当しています。ymnetへの投稿方法も簡単で、記事を次のアドレス `ymnet@kugi.kyoto-u.ac.jp` にメールを送るだけです。

これが主なymnetの利用方法ですが、ほかに過去の記事を取り寄せるなど便利な機能もあります。これらの機能については世話係の方からymnetを通じて時々紹介されています。一日の投稿数は平均5通程度なので、今のところあまり負担にはならない範囲と思われる。しばらく研究室を離れる時など一時的にymnet記事の受信を止めることも可能です。勿論脱会方法も簡単です。

設立当初は少なかったymnet登録者数も現在ではインターネットの発展に伴い、また大学院重点化で学生数が増えたことで、250名を超すほどになりました。気象学の特定の話題、たとえば最近では、「ノーマルモード」に関する50通を超える活発な議論が行なわれたり、データの情報交換、各メンバーの研究紹介など、積極的に活用されています。「天気」投稿や学会大会などに関するアンケートにも利用されることもあり、様々なセミナーの案内、若手会の案内も継続的に行なわれています。繰り返しますが、ymnetは若手が始めた若手のための敷居の低いメールリストですから、気楽に投稿して議論を盛り上げていきましょう。

* An introduction to the Young Meteorologist Network (ymnet).

** Kaoru Sato, 京都大学大学院理学研究科.

© 1995 日本気象学会